

学校目標・経営方針	
本年度の重点目標	甲府昭和高校Can-doリストを活用し、生徒の学びに向かう力、資質・能力の育成を図る。
	さわやか教育を実践し、自ら考え行動できる生徒の育成を図る。
	安全で安心して学べる教育環境をつくり、地域・関係機関と連携した取り組みの充実を図る。

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価							
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	年度末評価(2月26日現在)			
				方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	教育活動における甲府昭和高校Can-doリストの活用	育成すべき資質・能力を明確にした授業実践	相互授業参観実施状況、生徒授業アンケート、教職員・生徒アンケート	保護者のCan-doリストに関する認識については未だ課題が残るが、生徒の認識や教職員の活用状況は昨年との比較で向上が見られる。	B	Can-doリストに関する保護者への更なる理解啓発を様々な機会を利用して行う。 授業や部活動において、Can-doリストの項目に関する評価指標を明確にし、生徒と教職員間での更なる共有や活用を目指す。	
			育成すべき資質・能力を明確にした特別活動の実践	教職員・生徒アンケート			
2	学びの意欲を向上させる探究的な学びの実践	総合的な学習・探究の時間推進委員会での企画・運営及び成果分析	教職員アンケート	総合的な学習・探究の時間における、資質能力の育成を目指す探究的学習については、生徒・教職員共に良好な評価が得られた。 Classilについては、様々な活用方法に取り組む教職員が増え、また生徒とのコミュニケーションツールとしての活用も活発になってきた。	B	探究的学習については、感染防止の観点から成果発表会は見送られたが、外部の識者を迎えての校内発表会の際の評価は良好であり、その際の助言を次年度に活かしていく。 Classiの学習支援機能の積極的に活用を目指す。	
			指導と評価の一体化及び評価方法等についての検討				教職員・生徒アンケート
			Classilによる学習履歴と成果の自己分析及び課題発見(1・2年生)				教職員・生徒・保護者アンケート
3	生活リズムの確立を図る自主的な行動の実践	登校時指導週間の活用、面談による指導	教職員・生徒・保護者アンケート	5分前行動は励行され、5分前遅刻も昨年比で約1割減少している。 基本的な生活習慣の確立については、生徒・保護者・教職員の間で、その意義を共有できている。	A	挨拶・服装・5分前行動・期日・期間の厳守等、基本的な生活習慣の確立については、生徒の主体性を重視した取り組みを今後も継続する。	
			5分前行動の励行				5分前遅刻数、教職員・生徒・保護者アンケート
4	よりよい人間関係の構築とボランティア精神の涵養	特別活動を通した人としての生き方・在り方の指導	教職員・生徒・保護者アンケート	部活動や地域社会(老人ホーム、小学校他)との交流については十分な成果を得ることができた。 ボランティア活動については、主催団体から保険等の安全面での配慮があるものに限って紹介したため、活動数は減少した。	A	探究活動に係る校外調査も含め、今後も、安全面にも配慮した地域社会との連携やボランティア活動の推進を進める。	
			ボランティア活動の周知と安全指導				ボランティア活動数、教職員・生徒・保護者アンケート
5	防災計画・危機管理マニュアルの見直し	「水防法」、「土砂災害防止法」を踏まえた学校安全計画の見直し	教職員・生徒・保護者アンケート	安全・安心に学べる学校づくりや交通安全教育が的確に実施され、成果と一定の評価を得ている。 交通事故・違反に関しては、事故は大幅に減少している一方、違反者の数が増加している。	A	安全・安心に学べる学校づくりや危機管理に向けた対応について更なる取り組みを行う。 様々な機会を通して、より具体的な交通安全に向けた啓発活動を行う。	
			交通安全教室の充実				交通事故・違反件数、教職員・生徒・保護者アンケート
6	関係機関及び昭和三との連携事業の推進	連携事業の推進と改善	小中高合同会議での事業への反省、教職員・生徒アンケート	小中高合同会議での振り返りでは、全ての校種で肯定的な評価が得られた。	A	英語教育に関する連携の在り方については新たな可能性を模索する。	

学校関係者評価	
実施日(令和2年3月16日)	
評価	意見・要望等
3	・次の時代を担う生徒たち「まずは自分で考える」ことを身につけさせようという方針は必要なことだと考える。 ・「Can-doリスト」の教育課程における活用について、教職員対象と生徒対象のアンケート結果で回答傾向に差があるのが気になる。 ・生徒に身につけさせたい資質・能力を「Can-doリスト」として示し、学校と家庭が共有することは有効な手立てだと思う。
3	・探究的な学習に関しては、成果が表れていると思う。 ・生徒が「まずは自分で考える」ことを身につけさせることは重要である。 ・ICTの導入は、そのこと自体が目的とならないよう、手段として効果的に活用が進むことが望ましい。
4	・5分前遅刻への取り組みは、生徒とも共有されており、良い結果につながっているのが今後も継続が望まれる。 ・5分前遅刻の取り組みもよいことだと思うが生徒の焦る気持ちは事故につながらぬようお願いしたい。 ・生徒の主体性を大切に基本的生活習慣の確立を今後も継続してほしい。
4	・自主性を育む点からも、ボランティア活動への参加の推進は非常に効果的である。安全面への配慮をしっかりと担保したうえで今後も継続してほしい。
4	・交通事故に素早く、的確な対応が取られており、教職員が生徒の身になって事後処理を考えている様子が窺える。 ・重大な事故や違反はないものの、自転車の運転マナーの向上については、より一層啓発活動を行う必要がある。
4	・地域連携・協力の内容とその目標レベルをもう少し示すとよい。 ・地域連携の在り方を工夫、改善しながら、地域に開かれた学校づくりを推進していただきたい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。